

東 高等学校 令和7年度 教科 地理歴史 科目 世界史探究

教科：地理歴史 科目：世界史探究

単位数：3 単位

対象学年組：第2学年 1、2、5、7 組

教科担当者：齋藤礼文

使用教科書：『詳説世界史』（山川出版社）

教科 地理歴史 の目標：

【知識及び技能】 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 世界史探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技術を身につけるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界との繋がりに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したりしたことを説明したり、それを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	I 諸地域の歴史的特質の形成 【知識及び技能】 ・オリエント文明、インダス文明、中華文明などを基に、古代文明の歴史的特質を理解させる。 ・秦・漢と遊牧国家、唐と近隣諸国の動向などを基に、東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を理解させる。	1 文明の誕生 2 古代オリエント文明とその周辺 3 南アジアの古代文明 4 中国の古代文明 5 南北アメリカ文明 6 草原とオアシスの世界 7 秦・漢帝国	【知識・技能】 オリエント文明、インダス文明、中華文明などを基に、古代文明の歴史的特質を理解している。 秦・漢と遊牧国家、唐と近隣諸国の動向などを基に、東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を理解している。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
	【知識及び技能】 ・仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアと東南アジアの諸国家などを基に、南アジアと東南アジアの歴史的特質を理解させる。 ・西アジアと地中海周辺の諸国家などを基に、西アジアと地中海周辺の歴史的特質を理解させる。 ・キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成などを基に、西アジアと地中海周辺、ヨーロッパの歴史的特質を理解させる。	1 イスラーム教の諸地域への伝播 2 西アジアの動向 3 西ヨーロッパの封建社会とその展開 4 東ヨーロッパ世界の展開 5 西ヨーロッパ世界の変容 6 西ヨーロッパの中世文化 7 アジア諸地域の自立化と宋 8 モンゴルの大帝国 9 アジア交易世界の興隆	【知識・技能】 仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアと東南アジアの諸国家などを基に、南アジアと東南アジアの歴史的特質を理解している。 西アジアと地中海周辺の諸国家などを基に、西アジアと地中海周辺の歴史的特質を理解している。 キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成などを基に、西アジアと地中海周辺、ヨーロッパの歴史的特質を理解している。	○	○	○	18
	定期考査			○	○		1
2 学 期	II 諸地域の交流・再編 【知識及び理解】 ・西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播、ヨーロッパ封建社会とその展開などを基に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを構造的に理解させる。 ・宋の社会とモンゴル帝国の拡大などを基に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを構造的に理解させる。 ・アジア海域での交易の興隆、明と日本・朝鮮の動向、スペインとポルトガルの活動などを基に、諸地域の交易の進展とヨーロッパの進出を構造的に理解させる。 ・西アジアや南アジアの諸帝国、清と日本・朝鮮などの動向を基に、アジア諸地域の特質を構造的に理解させる。	1 イスラーム教の諸地域への伝播 2 西アジアの動向 3 西ヨーロッパの封建社会とその展開 4 東ヨーロッパ世界の展開 5 西ヨーロッパ世界の変容 6 西ヨーロッパの中世文化 7 アジア諸地域の自立化と宋 8 モンゴルの大帝国 9 アジア交易世界の興隆 10 ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の拓容 11 オスマン帝国とサファヴィー朝 12 ムガル帝国の興隆 13 清代の中国と隣接諸地域	【知識及び理解】 西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播、ヨーロッパ封建社会とその展開などを基に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを構造的に理解している。 宋の社会とモンゴル帝国の拡大などを基に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを構造的に理解している。 アジア海域での交易の興隆、明と日本・朝鮮の動向、スペインとポルトガルの活動などを基に、諸地域の交易の進展とヨーロッパの進出を構造的に理解している。 西アジアや南アジアの諸帝国、清と日本・朝鮮などの動向を基に、アジア諸地域の特質を構造的に理解している。	○	○	○	30
	【思考力、判断力、表現力等】 諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、関連性、意義などを多面的・多角的に考察し、表現させる。		【思考・判断・表現】 諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、関連性、意義などを多面的・多角的に考察し、表現している。				
	【学びに向かう力、人間性等】						
	定期考査			○	○		1

3 学 期	【知識及び理解】 ・宗教改革とヨーロッパ諸国の抗争、大西洋三角貿易の展開、科学革命と啓蒙思想などを基に、主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大を構造的に理解させる。 【思考力・判断力・表現力等】 諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、関連性、意義などを多面的・多角的に考察し、表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 みずから「問い」を立てさせる。歴史と現代の関連を追究させる。	14 ルネサンス 15 宗教改革 16 主権国家体制の成立 17 オランダ・イギリス・フランスの台頭 18 北欧・東欧の動向 19 科学革命と啓蒙思想	【知識及び理解】 宗教改革とヨーロッパ諸国の抗争、大西洋三角貿易の展開、科学革命と啓蒙思想などを基に、主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大を構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、関連性、意義などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
	山諸地域の統合・統合 【知識及び理解】 ・国際的な分業体制と労働力の移動、イギリスを中心とした自由貿易体制、アジア諸国の植民地化と諸改革などを基に、世界市場の形成とアジア諸国の変容を構造的に理解させる。 ・第一次世界大戦とロシア革命、ヴェルサイユ・ワシントン体制の形成、アメリカ合衆国の台頭、アジア・アフリカの動向とナショナリズムなどを基に、第一次世界大戦の展開と諸地域の変容を構造的に理解させる。 ・世界恐慌とファシズムの動向、ヴェルサイユ・ワシントン体制の動揺などを基に、国際関係の緊張と対立を構造的に理解させる。 ・集団安全保障と冷戦の展開、アジア・アフリカ諸国の独立と地域連携の動き、平和共存と多極化の進展、冷戦の終結と地域紛争の頻発などを基に、紛争解決の取組と課題を理解させる。 【思考力・判断力・表現力等】 諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、関連性、意義などを多面的・多角的に考察し、表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 みずから「問い」を立てさせる。歴史と現代の関連を追究させる。	9 西アジア地域の変容 10 南アジア・東南アジアの植民地化 11 東アジアの激動 12 第2次産業革命と帝国主義 13 列強の世界分割と列強体制の二分化 14 アジア諸国の変革と民族運動 15 第一次世界大戦とロシア革命 16 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 17 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊 18 第二次世界大戦 19 新しい国際秩序の形成	【知識及び理解】 第二次産業革命と帝国主義諸国の抗争、アジア諸国の変革などを基に、世界分割の進展とナショナリズムの高まりを構造的に理解している。 第一次世界大戦とロシア革命、ヴェルサイユ・ワシントン体制の形成、アメリカ合衆国の台頭、アジア・アフリカの動向とナショナリズムなどを基に、第一次世界大戦の展開と諸地域の変容を構造的に理解している。 世界恐慌とファシズムの動向、ヴェルサイユ・ワシントン体制の動揺などを基に、国際関係の緊張と対立を構造的に理解している。 第二次世界大戦の展開と大戦後の国際秩序、冷戦とアジア諸国の独立の始まりなどを基に、第二次世界大戦の展開と諸地域の変容を構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、関連性、意義などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	30
	定期考査			○	○		1
							合計
							105